

「くも膜下出血術中におけるランジオロール塩酸塩投与の効果の後方視的検討」のお願いとお知らせ

くも膜下出血の手術中は、血圧・脳循環の維持が必須であり、さらに術中動脈瘤破裂を防ぐ意味でも交感神経の抑制は有用と考えられています。ランジオロール塩酸塩は、 $\beta$  1 遮断薬の 1 つであり、頻脈の治療に使用される薬剤ですが、血圧低下をきたしにくく、くも膜下出血の手術中に使用される場合があります。今回の研究の目的は、くも膜下出血術中におけるランジオロール塩酸塩の投与の効果を検討することです。

2008 年～2011 年までの間に当院に搬入された破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血患者のうち手術を施行した症例を対象とします。患者情報（年齢、性別、採血データ、画像データ、手術術式、術中使用薬、術後経過、転帰など）をカルテから収集させていただき、ランジオロール塩酸塩の投与がされた方とされなかった方で比較検討させていただきます。これまでの既存情報のみを用い、新たに研究のために患者さんから検体を採取したり検査を行う事はありません。

患者さんの臨床情報は ID 等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、プライバシーが保護されます。また、これまで手術をうけた患者さん（または親族の方）で、ご自分の臨床情報を研究に使わないでほしいというご希望があれば下記連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校脳神経外科における診療には全く何の影響もなく、いかなる意思においても不利益を被ることはありません。

連絡先：防衛医科大学校病院 脳神経外科

竹内 誠

TEL：04-2995-1211 内線 2354